

活動レポート

道北技術士会

平成21年度 総会および研修会を開催

はじめに

道北技術士会では、定例の総会および研修会を開催しました。当日は北海道支部より森事務局次長をお迎えし、総勢28名の出席となりました。

以下にその概要を報告します。

日時：2009年（平成21年）4月18日（土）

13：00～19：00

場所：旭川ターミナルホテル

参加：28名（道北会員24名）

1. 定時総会

総会では以下の議案について審議し、全回一致で承認された。

議案第1号 平成20年度事業報告および決算報告

議案第2号 平成21年度事業計画案および予算案

議案第3号 役員改選

平成21年度の事業計画では道北地域の活性化に資するために社会動向や時宜に合った話題提供と継続研鑽の機会としてCPD活動、会員相互の技術向上と情報交換などを行っていくことが確認された。また今年度は役員改選の年度であり、新幹事体制が承認された。



定時総会

2. 研修会

演題1：技術士を巡る最近の動向について

講師：日本技術士会事務局 次長 森 隆広氏

概要：

- (1) 平成20年度 技術士一次試験結果
- (2) 平成20年度 技術士二次試験結果
- (3) 技術士会北海道支部の会員数
- (4) 日本技術士会の公益法人化への動きについて
- (5) 『ECO宣言！』ECO検定にチャレンジ
- (6) 平成21年度役員選挙日程について
- (7) 『技術士の資質の向上を目指した技術士CPD』



事務局次長 森隆広氏の講演

演題2：写真甲子園と写真の町づくり

— 地域イベントと町づくり効果 —

講師：東川町写真の町課 課長 市川 直樹氏

概要：

東川町といえば写真甲子園に代表されるように写真の町として有名であるが、写真の町として町づくりをするに至るには戦略があった。他の自治体には独自性、新しい価値、人と人をつなぐツール、それらのコンセプトで町づくりを模索した結果、たどり着いたのが写真であった。

また写真甲子園を開催する苦勞や工夫点など興味

深い話もあり、町の職員として長年、地域のイベントを支える活動をされてこられたご経験から地域の活性化について示唆に富む講演であった。



写真の町課長 市川直樹氏の講演

演題3：食育と地産地消の意義

— 地域食材加工と地域活性化 —

講師：旭川大学女子短期大学部生活学科
教授 豊島 琴恵氏

概要：

- (1) スローフード・地産地消・食育どこが違うのか？
- (2) なぜ今、食育なのか？「食」の課題と背景
- (3) 食育（地産地消）の展開
- (4) 食育（地産地消）の取り組みのポイント・実例
- (5) これからのキーワード

「個性・農業・地域・環境…+教育」



教授 豊島琴恵氏の講演

食育とは知育・徳育・体育の基礎をなす生きる上での基本であり、様々な経験を通じて食に関する知識と食を選択する力「食選力」を育てることである。食環境の変化や食の外部化の進行など、現代人が直

面する食の課題と背景について各種の具体的なデータをもとに指摘し、食のあり方についての提言や食育、地産地消の展開事例として短期大学での取り組みについて紹介があった。

演題4：緑と風の道

— 旭川のヒートアイランド現象・建築物と樹木と空気環境 —

講師：東海大学芸術工学部建築・環境デザイン学科
主任教授 石田 秀樹氏

概要：

建築環境学がご専門のお立場から快適な住環境をつくるための様々な工夫について提言があった。特に街づくりには街全体の風の通りを考えることが重要であり、気候情報を活かした街づくりについて取り組む必要がある。

また樹木が創り出す「そよ風」や京町屋の涼しさのメカニズムについて、あるいは雪と寒さを活かした貯蔵庫の事例など気候と調和を図るくらしや住宅について紹介があった。



主任教授 石田秀樹氏の講演

おわりに

例年、本会では地域の活性化や地域資源の活用等様々な分野において道北地域でご活躍されている方々を講師にお招きし研修会を開催しています。今年の研修会も地域の活性化を考える上で参考となる事例が多く参加者からも好評でした。

最後に、研修会にご協力頂いた講師の方々にお礼を申し上げ、ご報告とします。

(文責：道北技術士会幹事 菅野哲朗、山田 哲)